

## 2020年度 地域連携活動報告書

連携先名称：鹿児島県大島郡喜界町

協定締結日：平成28年7月28日

活動状況：継続中

連携先窓口：鹿児島県大島郡喜界町役場企画観光課 ふるさと未来創生室

吉田 圭志

活動資金：自治体および研究助成

担当教員(所属)：杉原たまえ (国際農業開発学科)、

活動体制 (単位)：大学

関連教員(所属)：豊原秀和 (名誉教授)

活動目的：

### 1.喜界町の農業活性化に関する連携事業を実施

2020年度は、豊原秀和 (名誉教授) が6月22日から26日まで喜界島に出張し、2020年度の連携内容について議論を行った。参加部署は、農林耕地チーム、営農支援チーム、庶務糖畜チーム、農産物加工販売施設の各担当者12名が参加して、それぞれの課題について議論を交わした。

#### 1) 農林耕地チーム

循環型モデル社会への構築及び高収益作物への営農転換促進

\* 亜熱帯作物への堆肥の有効性実証実験について、単収の増加・うまみをあげる堆肥の開発

\* 耕作条件の改善について：水はけのよい土壌の開発

\* 農作業労力の改善：ギンネム、アカギ、アサガオの除去方法の検討

#### 2) 営農支援チーム

\* 夏場の換金作物：台風に強く、短期間で収穫できる作物の検索

\* 供給先の開発

#### 3) 庶務糖畜チーム

\* ゴマの優良系統の選抜

#### 4) 加工センター

\* 加工品の販売促進について

## 活動内容及び成果について

\* 喜界島は国内におけるゴマ生産の 45%を占めているが、台風にあうと減産してしまうこと、品種が明確に選抜されていない点が課題となっている。そこで、2020 年度からゴマの DNA 検定や成分分析については国際農業開発学科熱帯作物学研究室・熱帯園芸研究室にて継続実施中である。

\* サトウキビの品質改良並びに生産量の増加について

万田酵素株式会社から研究費を頂き、万田 31 号の葉面散布が Brix 並びに生産量の増加について、継続実験を行った。その結果、万田 31 号を葉面散布すると Brix と生産量が増加する傾向にあることを究明した。

\* 堆肥については、農業と畜産の連携を促進するよう提言した。

\* 奨励作物として、ムクナ、菊芋などの栽培試験を実施した。

\* 喜界島は畜産（和牛）生産も盛んであるが、今後の畜産資源として孵化後 3 か月のエミューを福岡から 8 頭導入し飼育している。今回は個人資金で導入したが、今後は町を挙げて取り組めるようにしたい。現在は島の観光にも影響を及ぼすほど、毎日のように見学者が絶えない状況になっている。

\* 新規導入作物キクイモの導入試験

1) 植え付け時期：令和 2 年 5 月 19 日

2) 栽培場所：喜界町上嘉鉄集落

3) 試験協力者：藤村昭耀（農家）

4) 栽培面積：7 4 m<sup>2</sup>

5) 結果

5 月 19 日に定植し 12 月に収穫したが、台風害（塩害）に遭遇したため、収量増にはつながらなかった。今回の試験にあっては、塩害の影響が大きいことが確認された。今後は、防風対策と塩害が洗い流せるような完遂施設（スプリンクラー）が必要である。栽培地にあっては粘土質土壌よりも砂質土の方が収穫量は多かった。栽培時期が 5 月中旬であったことから、台風害が大きいと考え 3 月中旬ぐらいに植え付け時期やや防風対策が重要な課題といえる。

キクイモの商品開発においては、将来的にパウダーやチップとして販売を予定し、進行中である。

## 喜界町の地域活性化のための連携事業

\* 観光と農業の融合を通じて「交流人口」・「関係人口」・「定住人口」の増加促進などの

取り組みを行い、鹿児島や都会からの研修生の受け入れを行っている。一度来島した人にはパスポートなどを発行し、数回来島した人に記念品を贈呈するなどの提案をした。

\* 令和 1 年までは国際農業開発学科の学生が本学卒業生の農家に実習の名目で来島していたが、令和 2 年度からはコロナ禍の影響で中止となっている。喜界島には本学卒業生が 10 余名定住し、学生との交流も行っている。

#### \* 地域産品を活用した商品開発

喜界島特産のゴマと黒糖を用いたお菓子（販売中）の製造やムクナ豆を用いた商品開発が進行中である。

### その他

\* 令和 2 年度はコロナ禍の影響で出張もままならず十分な活動はできなかった。様々な導入作物の試験栽培などは営農支援センターに依存するのみに終わった。令和 3 年度はコロナ禍が収まったら、役場農林課や企画観光課 ふるさと未来創生室との連携を密にし、試作や商品開発、交流人口の拡大に努めたい。

令和 3 年以降は農業で豊かな村づくりが内発的に提唱され、①農業の多面的機能を活用して持続的で豊かな社会を構築し、村に住む人々が幸せを感じ、地域に定着できる村づくり、②環境にやさしく、資源と経済が地域に循環する自立した農業の確立、③地域の課題解決に貢献することを目指す。